



昨年10月、近鉄の観光特急「しまかぜ」に乗って、賢島まで往復してきました。5月に吉野山からの帰りに大阪阿部野橋まで「青の交響曲（シンフォニー）」に乗車し、8月は奈良へ行くのに大阪難波から「あをによし」に乗車。この年、近鉄の観光特急で乗車していないのは「しまかぜ」のみで、満を持しての乗車でした。

「しまかぜ」は、名古屋・大阪難波・京都～賢島間を週6往復ずつ運行していて、「しまかぜ特別料金」が必要なワンランク上の特急列車。おとしにも乗車したのですが、宇治山田から名古屋までと乗車区間が短かったこと、プレミアム最前列が1人席しか獲れなかったことから、次回は2人席側の最前列で全区間を乗車しようと決めていました。

「しまかぜ」のプレミアム席は総革張りのマッサージ機能

付き電動リクライニングシートで、窓のブライインドも電動。また、プレミアム席のほかに「サロン席」と「和風個室」「洋風個室」のある「グループ席車両」と、「カフェ席」と販売カウンターがある「カフェ車両」があります。普通座席はなく全車特別車となっています。

当初「しまかぜ」は片道みの利用を考えていたのですが、最前列席とカフェ席を往復で別々に楽しもうということになり、賢島まで往復乗車することに決定。と言っても名古屋～賢島間のプレミアム席片道利用料金は、特急料金1,640円＋しまかぜ特別料金1,050円の計2,690円＋運賃。JRの特急＋グリーン車料金と比べたら、破格の安さと言えます。

10時25分、近鉄名古屋出発。桑名を通過したところでカフェ車両に行ってみると、すでにカフェ席は満席で空席待ち。



4号車は2階建て構造の「カフェ車両」。往路は2階カフェ席に長く滞在し、「しまかぜ」ならではの車窓を満喫しました。



近鉄名古屋駅5番ホームに停車中の賢島行き「しまかぜ」。登場して10年以上経ちましたが車両デザインは今でも斬新。



↑「松坂牛カレー(水付き)」(1,600 円)、♪「タルト・ユズ」と「アイスティー」のスイーツセット(1,400 円)

15分ほど並んで2階(階上)席に空席ができて案内されました。実は1階(階下)席ならもう少し前に空いたのですが、前回利用したので、今回は絶対2階席と決めていたのです。



賢島駅のしまかぜポストと名古屋発着&大阪難波発着「しまかぜ」。この日は京都発着が運休日だったので3本並びが見られず残念。

名古屋発「しまかぜ」のスイーツは人気パティスリー「シエ・コーベ」が提供していて、家内は「タルト・ユズ」と「アイスティー」のセット(1,400円)を注文。これが一番人気で、真っ先に品切れになっていました。私は運行開始からの人気メニュー「松坂牛カレー」(1,600円)を注文。ややボリュームがなかったものの、味は本格的でおいしかったです。

その後、2階席が満席になることはなく、アテンダントが長居していいと言ってくれたので、カフェ席から流れゆく車窓を存分に堪能しました。12時27分、終点賢島到着。復路の名古屋行き出発時刻まで約3時間あるのですが、乗船予定していたクルーズ船が故障で運休したため、駅周辺をうろうろして時間潰し。そして15時40分、待ちに待った名古屋行き「しまかぜ」出発進行。復路の座席は、連日の争奪戦でゲットしたハイデッカー1号車の最前列2人席。名古屋到着までの2時間、トイレ以外席を離れず特等席を満喫。前面展望は名阪甲特急「ひのとり」で何度も味わっていますが、単線区間もある志摩線は新鮮でした。次回は京都発着の「しまかぜ」に乗車し、樫原線や京都線の前面展望を楽しみたいと思っています。



最前列シートからの前面風景。展望列車では異例の前面に非常扉があるのが特徴。運転室とは透明アクリル板で区画。



ハイデッカー1号車「プレミアム」の車内。座席配置は2人席+1人席。豪華シートですがバックシェルじゃないのが玉に瑕。